

はじめに

近年、言語教育において「Social Justice（社会正義）」「協同」「つながり」「多様性」などさまざまな焦点、目標が提唱されています。このような試みに共通していることは、言語学習が「学習者の人間的成長の場」としてとらえられていることです。言い換えれば、学習の過程で身の回りのさまざまな「他者」と触れ合うことにより、視野を広げつつ言語を習得することが強調されています。しかし、このような試みは、ともすれば、過程（他者との触れ合い）に焦点が当てられすぎ、本題である言語習得がおろそかになる危険性をはらんでいます。

ここで有用となるのがProficiency-Based Instruction（プロフィシェンシーに基づいた指導法、PBI）です。PBIとは「言語が上達するとはどういうことなのか、上達するには何が必要か」を考慮した言語教授法です。本書はAmerican Council on the Teaching of Foreign Languages（ACTFL、米国外語教育協会）のACTFL Proficiency Guidelines 2024（2024年版ACTFLプロフィシェンシーガイドライン、ACTFLガイドライン）をもとにPBIを詳説する目的で書かれています。PBIを積極的に取り入れてはじめて冒頭にあげた指導法は「言語の上達」「人間としての成長」の2つの目標を達成できると言えるでしょう。

本書は教案作りの礎として使用できるばかりではなく、カリキュラム作成にも役立ちます。言語の授業において学習者が「何を知っているか（知識）」ではなく「何ができるようになるか（能力）」という目標を立てることが必要であることは言うまでもありません。「何ができるようになるか」という目標設定をするにあたり、本書のACTFLプロフィシェンシーガイドラインとPBIについての詳説は一助となるでしょう。また、外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment）を軸に「話者の言語能力」を考える際にも本書を参考にすることができます。

本書の編者、著者は全員ACTFL Oral Proficiency Interview（話すプ

ロフィシェンシー判定インタビュー、ACTFL OPI) のテストの資格を持っており、プロフィシェンシーの基準を熟知しています。それだけではなく、各所属機関において積極的にプロフィシェンシーの概念に基づいた授業を行う「現場」の教員たちでもあります。そのため、授業案、授業報告は、「共有」を旨として書かれており、日本語教育に従事している方々、これから始めようとしている方々が即、活用できる内容となっています。

第1部(第1章：三浦謙一、第2章：渡辺素和子)では、ACTFLガイドラインの概要について述べ、PBIがどのような教授法であるかを説明します。続く第2部(第1章：渡辺素和子、第2章：川西由美子・味岡麻由美、第3章：三浦謙一)では、学習者を初級から中級へ導くために何が必要かを述べ、実際の指導案、指導報告を提示します。第3部、第4部の構成も第2部の構成に準じます。第3部(第1章：渡辺素和子、第2章：久保百世、第3章：高見智子、第4章：渡辺素和子)では、中級から上級へ向けての指導、第4部(第1章：三浦謙一、第2章：三浦謙一、第3章：渡辺素和子)では上級から超級へ向けての指導に焦点が当てられています。2024年版ACTFLガイドラインには超級の上の「卓越級(Distinguished)」というレベルの記述がありますが、これは非常に高いレベルであるため、特殊な教育機関を除き一般の教育機関では目標とされないレベルです。「補」(三浦謙一)では、超級と照らし合わせつつ、このレベルの能力を解説します。さらに「補」では、言語能力アセスメントにおいて世界の二大基準とも言えるACTFLガイドラインとCEFR(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment, 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠)との関連性について詳説されています。

本書を読み進めるにあたり、まず第1部でACTFLガイドライン、PBIとは何かを理解してからほかの部に移ることをお勧めします。本書が日本語教育においてカリキュラム作成、授業案作成、教員養成等、さまざまな分野で活用されることを願っています。

目次

第1部 PBI (Proficiency-Based Instruction) の概要

第1章 ACTFLプロフィシエンシー

ガイドラインの概要 (三浦謙一) 002

第2章 プロフィシエンシーに基づいた指導法：PBI (渡辺素和子) 024

第2部 初級レベルの指導

第1章 初級から中級へ

—何ができるようになることが必要か— (渡辺素和子) 044

第2章 初級から中級をめざす活動 (川西由美子・味岡麻由美) 062

第3章 初級の学習者が中級をめざす授業 (三浦謙一) 086

第3部 中級レベルの指導

第1章 中級から上級へ

—何ができるようになることが必要か— (渡辺素和子) 104

第2章 中級-下から上級をめざす活動 (久保百世) 122

第3章 中級-中・上の学習者が上級をめざす活動 (高見智子) 148

第4章 ナラティブの指導

—体験談と手順説明を中心に— (渡辺素和子) 166

第4部 上級レベルの指導

第1章 上級から超級へ

—何ができるようになることが必要か—（三浦謙一） 186

第2章 上級から超級をめざす活動 —授業報告—（三浦謙一） 204

第3章 上級の学習者が超級をめざす授業（渡辺素和子） 226

第5部 補遺

第1章 補：卓越級とは（三浦謙一） 244

第2章 補：CEFRとACTFLガイドライン（三浦謙一） 250

おわりに 257

著者一覧 259